

平成19年度 第3回 平塚市博物館協議会 会議録

開催日時

平成20年3月26日(水)10時~12時

開催場所

平塚市博物館 特別研究室

会議出席者(敬称略)

会長 江藤 巖

委員 伊東 幸子、加藤 幸子、庄司 一郎、立山 洋典、田村 壽

事務局 浜口館長、井上館長代理、明石館長代理

会議の概要

1 開会あいさつ

浜口館長：早いもので、2年間任期という協議会はこのメンバーで協議していただくのが、今日が最終回となり、さびしい気がいたします。忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

2 会長あいさつ

江藤会長：我々の任務も本日で最後となりました。長い間ありがとうございました。最後の協議会ですが、協議員6名全員出席で会議が成立しました。それでは議題(1)から、事務局よりご説明をお願いします。

3 議 題

(1) 報告事項について

1. 2月末までの入館者数及びプラネタリウム観覧者数について

3月は1週間残しており、最終的なものではありませんが、19年度入館者数は総合計6万9581人です。前年度と比べ若干下がっている傾向が見えますが、12月はアスベスト工事で休館してゼロとなっています。3月は例年4000人前後入りますので、前年度と同じ数字になるかと思います。また、大人が多く子どもが少ない、とう傾向も例年通りです。団体見学等については、来年度、最終的な結果を改めてご報告させていただきたいと思います。

プラネタリウム観覧者数は一般投影が1万3573人、投影回数は288回です。昨年度に比べ大幅に増えていますが、これは昨年9月から11月にかけての「銀河鉄道の夜」の投影回数が123回ということで、担当者が非常に頑張ったためです。総人数も2万585人、大人6113人、子ども1万4472人で、「銀河鉄道の夜」の影響で大幅増となっています。

2. 第9回博物館まつりについて

参加団体14団体で2月9日から約2週間開催し、一年間の成果をまとめて発表しました。そのなかで5団体が展示解説、ピーチコーミング、真昼の星を見よう、火起こし・弓矢体験、太鼓などの実演を行い、親子連れなど、16日は210人の参加がありました。16日午後の発表会では6団体が内容の濃い発表を行い、110人が参加しました。

3. 企画展「今年はうるう年」展について

天文担当者の企画が通りまして、国立科学博物館と共催の「科博コラボミュージアム in 平塚」という形で2月2日から開催し、好評のために4月8日まで延長することになりました。会議がおわりましたら、会場で担当者が解説いたします。関連行事ではプラネタリウムで2月23日、国立科学博物館の先生方による講演「こよみと時計のお話」では46名の参加、29日のstyle-3による「うるう年コンサート」は大人も子どもも楽しめるもので70名の参加があり、期間中はギャラリートークも行われました。

4. 春期特別展「水辺の楽校によろこそ」

3月15日から5月6日まで開催します。関連行事「水辺の楽校交流会」、「水辺の楽校で遊ぼう」があります。議題が終わりましたら、会場で担当者が解説します。

5. ミニ文化祭「編みと織りの考古学」

昨年春、東海大学で行われた「第15回 足もとに眠る歴史展」で展示された、縄文時代の“編み”と弥生時代の“織り”の資料一式をお借りして行いました。

以上について、明石館長代理が別添資料に基づき、一括して報告した。

(2) 20年度事業計画(案)について

1. 特別展

平成20年度も年3回の特別展として、展示解説ボランティアの方にも選んでいただきながら、6分野の資料を担当者がさまざまな視点から紹介する夏期特別展「平塚市博物館 こだわりの100品」、金目川をテーマに5分野の学芸員共同による画期的な展示として秋期特別展「金目川物語(仮称)」、春期特別展「加藤あき植物観察画」を実施します。なお第10回博物館まつりを10周年らしい企画で、また夏期・秋期特別展に併せてイブニングミュージアムをイベント中心に実施したいと思います。

2. 寄贈品コーナー

3. プラネタリウム

4. 体験学習・・・大人を対象とした縄文土器製作も実施

5. その他の全館的事業

6. 自由参加の事業

7. 申し込み制の事業・・・自然観察ゼミナール「海辺の自然を見よう」・「自然観察会リーダー入門」と自然観察ウォーキングはリンクする形で行われるものです。

8. 年間会員制の事業・・・民俗部門の博物館太鼓連が祭囃子研究会に名称変更し、博物館を中心に地域へ活動を展開していきます。

9. 会員制行事参加者有志による分科会活動・・・地質調査会の活動

以上について、明石館長代理が別添資料に基づき、一括して報告した。

(3) 20年度予算について

平成20年度の博物館の予算について、井上館長代理が別添資料に基づき、一括して報告した。

【質疑等】

加藤委員：20年度普及事業予定にあります生物部門の「自然観察リーダー入門」と「自然観察ウォーキング」ですが、今年度のようにと来年度への期待をお聞かせください。

浜口館長：今年度は「自然観察ウォーキング」を3回実施しました。2回目に先だって行った「自然観察リーダー入門」で、参加者に秋のウォーキングのご案内役をお願いしました。このゼミナールに参加された12名の中から8名の方が、2回目のウォーキングで午前中のリーダー役を勤めてくださり、午後は私と松本がご案内しました。そのようなパターンで来年は2回行いたいと考えています。

(4) 使用料等の見直しについて

「博物館の使用料・手数料の見直しについて(案)」に基づいて館長が説明した。

浜口館長：前回の協議会后、市役所の方針をもとに、江藤会長のご意見を反映してまとめた原案です。

内容的には前回お諮りしたものとほぼ同じですが、ご意見をまとめて頂き、今後の庁内の検討のなかで参考にさせていただきたいと思います。

内容ですが、基本的に使用料・手数料は条例に基づいて、現状は入場料無料、プラネタリウム観覧料は100円、特別展は500円以内で徴収可能、使用料は特別展示室が1日6000円、講堂が1時間500円、茶室が1日9000円、という規定になっています。市全体で財政健全化、コスト計算・受益者負担の考えのもと、この使用料・手数料についての見直しが進むなか、

その算定基準がまとめ、それに基づいて試算しました。

講堂などの使用料について、特別展示室は1日約7000円、講堂は1時間約600円、茶室は1日約2000円という基準額が出ました。で、前回お話ししたように、市の試算に近い金額で、特別展示室は1日7000円、講堂は1時間600円として、2割ぐらいの値上げでいかがか、と思っています。なお博物館事業に直結した利用については無料のまま変わらない形です。茶室使用料については現状と試算とでは大きな開きがありますので、ご意見をいただきたいということで、江藤会長のご意見をもとに、公民館施設にも茶室があるなかで博物館における茶室の必要性など、将来的に移転・取り壊しなども視野に入れて検討することとして、1日7000円に値下げして利用率の推移を見守る、という文言になっています。

プラネタリウム観覧料について、本体の耐用年数が過ぎた形で稼働しており、トラブルも起きている状況では、利用者の立場から考えると値上げはむずかしいため、今後更新した段階で検討したらどうか、という形でまとめています。

入館料について、博物館法で公立博物館は基本的に無料で運営すべきである、という方針が示されていて、平塚でも入場無料でやってきています。結果的に、図書館と同様に気楽に利用してもらい、多くの人に来ていただくなかで、さまざまな活動が発展してきています。博物館を通じて、単に一人一人が地域について学習するだけでなく、市全体の地域活性化の基盤づくりにつながっていますので、今後も入場料無料がふさわしい、ということで合意がいただければ嬉しいとおもいます。

特別展については、江藤会長からご意見をいただいた部分ですが、常設展示の延長となるような地域調査・研究結果の紹介という展示を主に行っており、その意味合いで無料がよろしいのではないかと、ということです。今後、他の施設との連携や巡回展など、必要性に応じて徴収する可能性も大いにあるので、社会情勢の推移も勘案して上限500円を若干上げておいてはどうか、というご意見を反映させていただいています。よろしくご協議ください。

田村委員：本年度、施設使用料として貸し出されたのは6000円だけですね。いつもこのようなものですか。

浜口館長：有料の使用はごく特殊なケースで、今後値上げしても実際に収入増になるわけではありませ

江藤会長：政治的・宗教的、営利を目的とした使用はできないですね。

浜口館長：はい。市役所全体の施設使用の規定の中で制限あります。

江藤会長：公民館の茶室が無料であるなか、博物館に茶室を置く理由というのはどうでしょうか？

伊東委員：そもそも博物館に茶室を作ると発想はどこから？

浜口館長：駅南口の弦斎公園の場所にあった弦斎庵という茶室が火事で焼けた際、市民の方から再建の要望があり、市が「博物館を作る時に茶室を作りますので」という約束をした、ということです。横浜の三溪園の茶室を模したもので、銘木を使った造りなど、しっかりしたものですので、これまで取り壊したいという話も出ましたが、なかなか壊しにくい事情があります。本来はどこかの施設に移転して維持・管理していただくのが良いのですが。

伊東委員：使わないともったいないので、茶室の意義をもっと周知されてはいかがでしょう。

田村委員：公民館と違い、それなりの茶室ですから、意義があると思いますが、やはり余り利用されないのはいろいろな面で問題があるかな、と思いますね。

加藤委員：今までどのくらい利用されているのですか？

浜口館長：年間で1回あるかないか、というところですね。こどもフェスタの際、有料ではないのですが使っていただきました。

加藤委員：原則として原案に賛成です。茶室も、もう千円ほど値下げして使っていただくほうが、とも思います。

立山委員：前回私は、入館料を取るということに意味もある、という意見を申し上げました。館として

は入場者が減るという予想があり、今まで通り無料を買きたい、ということでしたが、言外にそういうことがあるということによろしいですか？

浜口館長：単に数字の上で入場者が減るということのほか、その結果として、平塚という地域に関する興味・関心を持つ方が減ってしまうことが、地域としてマイナスが大きい、と考えています。地域のために、できるだけ気楽に大勢の方に展示を見ていただくことが重要である、という主張をしていきたいと思えます。

立山委員：プラネタリウムのトラブルで観覧料を払い戻す、という現状はかなりショックなのですが、頻度はどのくらいでしょうか？

浜口館長：平均して2～3か月に1回はトラブルがあり、先日も機械が途中で止まって観覧料を払い戻すという、現実的にかなり深刻な状況です。教育委員会、社会教育部にも、プラネタリウムの更新が緊急課題であることを認識していただく材料として、敢えてこのような表現で書かせていただきました。

立山委員：故障頻度の記録は残っていますか？ 請求する際に書類が必要なので。

浜口館長：はい。しっかり記録されていると思います。

庄司委員：学校としては入場料無料はありがたいです。茶室などは、使用料が高いかどうか、ということより、今後どうしていくか、という方向性が問われるのではないのでしょうか。プラネタリウムは思い切って変える時期である、と強く思います。

江藤会長：どうでしょうか。この原案通り、ということによろしいでしょうか。

浜口館長：では今後必要があった場合に、協議会のご意見ということで、市に提示させていただきたいと思えます。

江藤会長：プラネタリウムの件は大変心配ですので、市には強調してお願いしてください。

浜口館長：現状認識は充分にいただいているのですが、財政的な面で億を超えた金額ということがネックになっています。

(5) その他(意見交換)

浜口館長：年度替わりということで、協議会では庄司先生・田村先生・伊東先生・加藤先生はご退任となります。江藤会長、立山先生には引き続きよろしくお願ひします。後任については、最終的に4月の定例教育委員会で決める形となります。博物館では、私は退職しまして、来年度は明石・鷹・井上が中心スタッフとなりますので、よろしくお願ひします。ご退任なさる先生方に一言ずついただければと思えます。

伊東委員：10年間、大変勉強させていただきました。協議会に出席することで、平塚が良い町であることを認識させられました。ますますのご発展を祈っております。

加藤委員：6年間通わせていただきました。地域に根ざした教育普及活動の誇りや市民との繋がりを大事に、30年の歴史を若い人に繋げていただきたいと思います。こども達に目を向けた活動が引き継がれること、特別展でこども向けのギャラリートークができれば、と願っています。

庄司委員：「銀河鉄道の夜」のようなヒット企画など、未来を担うこども達のための企画をお願いします。

田村委員：公募の市民代表の委員として気概を持って参加しました。館も学芸員の方もいろいろと内情は大変かと思えます。市民に視線が向いた有意義な博物館を、これからも引き続きたくさん応援していきたいと思えます。

江藤会長：この2年間、皆さんと一緒に大役を勤めさせていただきました。ありがとうございました。

庄司委員：来年度、他の施設との共同企画はありますか？

浜口館長：5月か6月、美術館の「村田朋泰展」で中央公民館・博物館がスタンプラリーのすることになっています。スタンプラリーも善し悪しがありまして、展示を見ていただくことと繋がらない面もあり、なかなかむずかしいのですが。

立山委員：町田の東急のプラネタリウムが閉館になります。文化的な施設がなくなることは住民として淋しい気がします。平塚博物館もぜひプラネタリウムを守っていただきたいと思えます。